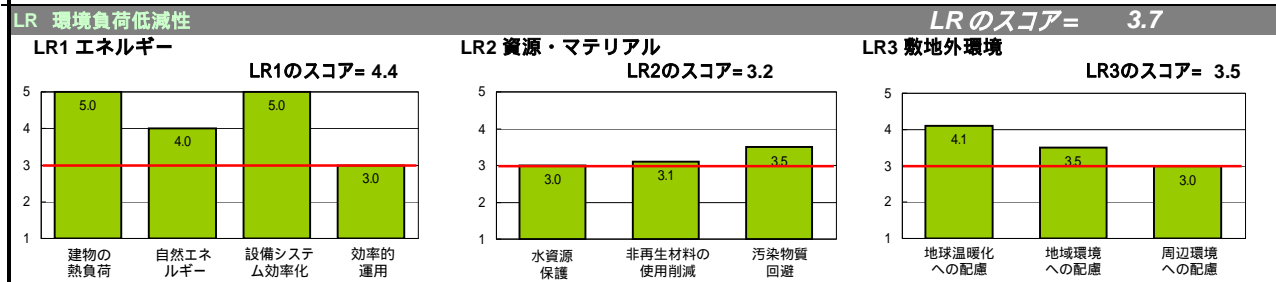
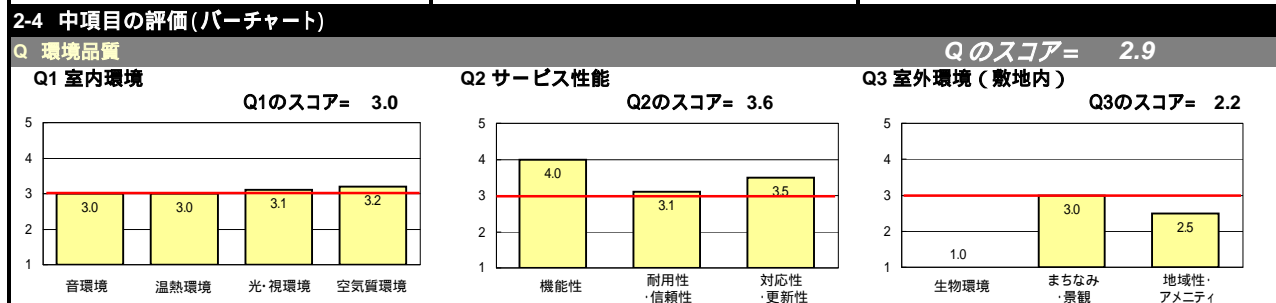
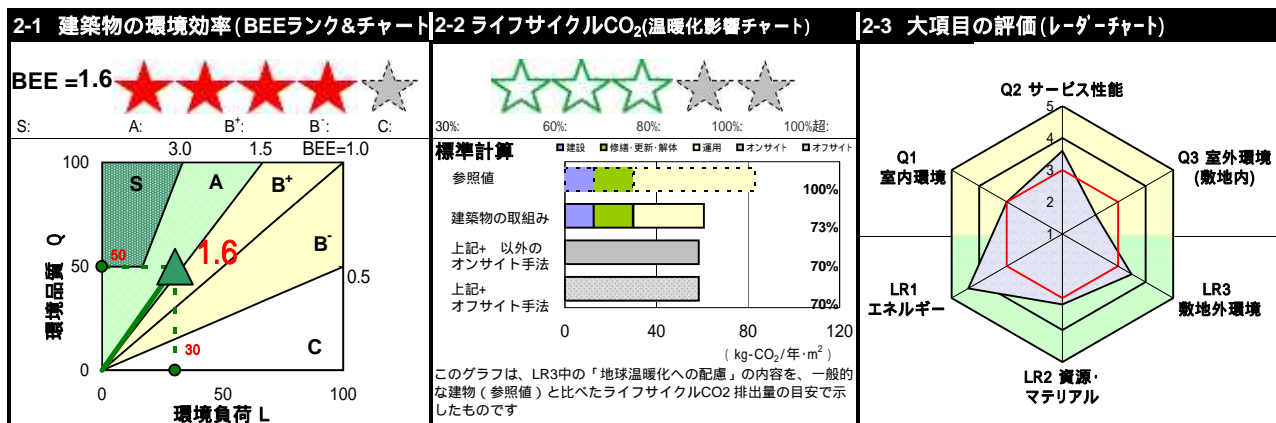


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	MB新棟	階数	地上5F
建設地	相模原市南区北里1-15-1	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	360人
気候区分	地域区分	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年8月 予定	評価の実施日	2011年7月19日
敷地面積	4,916 m <sup>2</sup>	作成者	鹿島建設横浜支店一級建築士事務所
建築面積	2,033 m <sup>2</sup>	確認日	2011年7月19日
延床面積	9,558 m <sup>2</sup>	確認者	鹿島建設横浜支店一級建築士事務所



3 設計上の配慮事項		その他
<b>総合</b> 省エネルギー性の追求 : 自然エネルギー・省エネ機器・エコマテリアルの採用 更新性を考慮した建築・設備計画 : メカニカルバルコニーの採用等 緑化の推進 : 周辺の緑地と調和した計画		
<b>Q1 室内環境</b> 共用部に複層ガラス (Low-e)、南面一般窓に熱線吸収ガラスを採用し熱負荷低減に配慮している。 床・壁・天井の建材にはF を採用している。	<b>Q2 サービス性能</b> ゆとりある階高とし、研究室は露出天井仕上げでCH=3.8mを確保し広がりのある快適な空間を計画している。 衛生器具には節水型を採用している。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 既存の周辺環境に配慮した植栽を計画。既存建築物と調和の取れたデザインとしている。
<b>LR1 エネルギー</b> 屋上に太陽光発電設備を導入し自然エネルギー利用を図る。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 休憩スペースに再生材インターロッキングブロックを採用している。節水器具を採用し水資源を保護する。	<b>LR3 敷地外環境</b> 燃焼機器を使用せず大気汚染防止へ配慮している。駐車場、駐輪場を設け交通負荷の低減に配慮する。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい